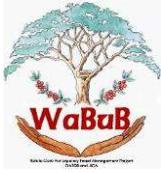


# WaBuB PFM News

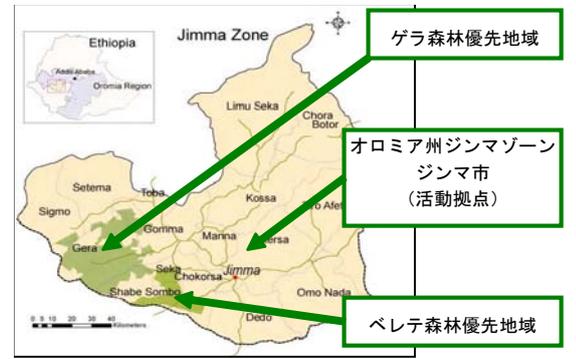
~Respect Local People's Knowledge for Sustainable Forest Management~



JICA 技術協力プロジェクト

エチオピア ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

2008年4月30日発行 (第17号)



## ようやく雨期の到来か！？…

4月に入ってもなかなか雨が降り出さず、ジンマで停電が頻繁なだけでなく、アジスアベバで計画停電も始まりました。ベレテ・ゲラでも影響が出始め、訪問した村では、小川が涸れたために、WaBuB Field School で育てたキャベツに水をあげることができずに枯れてしまっていました。一方で、雹が降ったために作物が打撃を受けたと嘆いているところもあり、非常に不安定な気候に農民が戸惑っています。4月後半になると、ようやくまとまった雨が降り出すようになってきて、先日3日間の泊まりがけで村へ行くと、雨男パワーが炸裂し、しっかり3日間とも土砂降りの雨に見舞われました。同行するプロジェクトスタッフや普及員には嫌われますが、農民たちは「雨を連れてきてくれてありがとう！」と喜んでくれました。泥まみれになる雨期は活動にとっては少し憂鬱ですが、農民の笑顔を楽しみに、また村巡業を続けていきます。

## WaBuB の組織化が大詰めです！ ~境界線の確認作業に四苦八苦~

ちょうど1年ほど前から始まった WaBuB(森林管理組合)の結成(WaBuB PFM News 6~8号参照)が、各集落で村落開発普及員の支援により進められています。5月までに集落境界の確認(ステップ7)、森林利用者の登録(ステップ8)、WaBuB 全体会議(ステップ9)、そして森林仮契約の作成(ステップ10)までを終えることを目標に、郡森林官やプロジェクトがサポートに奔走しているところです。中でも困難なのが、「集落境界の確認」作業です。集落によっては森林が広大である上、周りの集落や森林に隣接して農地を持つ住民と「どこを境界にするか」で折り合いがつかず、遅々として進みません。

ゲラ森林のワガチャ村では、内側の境界(居住地と森林との境界)を確認する作業が行われていました。普及員の指揮の下、6名の WaBuB 準備委員と村長代理(長老の1人)が集まり、森林へ向かいます。途中で、森林の近くに農地を持つ農民に声をかけて、同行を求めます。基本的に、「現時点で森林のエリアは森林とする」という方針ですが、「あっちの小川までは乾期に家畜が草を求めて入るから、居住地として認めて欲しい!」「ここは以前から森があったはずだ。家畜が入れば、森が荒廃するばかりじゃないか!」と、早速、言い合いが始まります。普及員や村長代理が間に入って調整を図りますが、なかなか農民も必死です。時間をかけて話し合いをし、両者がどうにか折り合いをつけたところで、目印になる大木にペンキでマーキングをしていきます。同時に、普及員が携帯型 GPS で位置を記録して、次の境界へ移動していきます。



マーキングと同時に GPS で位置を記録

比較的小さい森であるにも関わらず、丸1日かかって内側の境界を終えたものの、2か所で折り合いがつかずに保留となりました。また、外側の境界(隣接する集落との境界、多くは深い森の中に位置する)については、「隣村の村長と話し合い、同行してもらわないと決められない…」と、これまた保留となりました。ゲラ森林の28集落、ベレテ森林の13集落で、今も同様の確認作業が進められています。これから雨期に入れば、道なき森の中を泥に足をとられながら作業をすることになります。農民からは「ライオンが出るから銃を持った警備員に同行してほしい」「外側の境界へ行くまでに半日かかるから、昼食代を支給してほしい」などの要求が絶えず、大詰めながら未だ見通しが立たない状況です。



各地点で合意を得ながら境界を決めていきます

今後、境界の確認が終わった集落から、GPS で記録したデータ(緯度と経度)を基に、集落地図(右図)を作成します。地図作成には GIS(地理情報システム)の活用も検討しましたが、オロミア州や郡森林官に技術者がおらず運用が困難であることから、GPS データ処理の簡易ソフト(Map Source)を使って作成しています。また、森林管理契約に記載する重要な項目として、集落の居住エリアと森林エリアの面積をそれぞれ算定する必要がありますが、それには画像解析用のフリーソフト(LAI32)を応用します。作成した地図を画像として認識することにより、簡単に面積を算出することができます。

Gura at Gura Afalo village in Gera Forest



WaBuB は、現地オロモ語で(地域住民により組織される)森林管理組合の略称、PFM(Participatory Forest Management)は参加型森林管理の略称です。よって、WaBuB PFMは、本プロジェクトが確立・普及を目指す WaBuB による参加型森林管理方法を意味します。

## 農民の学校 WFS ～改善できているかな？～

WFS(WaBuB Field School)の経験を普及員が共有し、改善点を明確にするためのワークショップを2月に実施(第15号参照)し、3月には普及員を支援するための「農民ファシリテーター」の養成研修を行いました(第16号参照)が、その後のフィールドでのWFSはどうでしょうか？改善がされているのでしょうか？

### ～ベレテ森林サバカ・ダビエ村 ミフタヒ普及員のWFS～

2か月前にミフタヒ普及員のWFSを訪問した時は、毎週の観察・分析・発表が定着しておらず、農作業のみがメインになってしまっているという課題がありました。今回はしっかりと時間割に組み入れられており、メンバーも慣れた様子で観察作業を開始しました。興味の高いアボカドや野菜を対象とした学習に入っていることもあり、特に女性達が生き生きと観察や議論をしているのが印象的でした。以前は普及員が行っていた発表の準備も、女性メンバーが率先して紙やテープを取り出して用意をします。ちょうど郡のジェンダー局長が視察に来ており、「このWFSは私達が目指す女性の能力向上の目的に合っている。是非、この調子で森林管理やWFSを続けていって欲しい…」と、お言葉を頂きました。



毎週の観察にも慣れてきました！

### ～ゲラ森林サディ・ロヤ村 ティギストウ普及員のWFS～

3か月振りに訪れたティギストウ普及員のWFSは、最初からまるで様子が変わっています。以前は時間になってもパラパラとしかメンバーが集まらず、雰囲気もなんとなく沈んでいましたが、女性が積極的に発言をし、賑やかにセッションが開始されています。研修を受けた女性の農民ファシリテーターがテキパキと議事進行をし、ティギストウ普及員は後ろに座ってメモを取っています。



農民ファシリテーターが進行し、自分達でWFSを実施しています

観察の作業に入っても、やはり女性の積極さが目立ちます。どのグループも女性がペンを取り、分析結果をまとめています。おまけに各グループの発表でも、別の女性達が慣れた様子で前に立って発表をします。男性陣は遠慮がちに時々質問をするものの、女性の活発、積極さには敵わないようです。ちょうどゲラ森林内から26名の普及員が訪問しており、「何か問題点を指摘してやろう！」と意気込んで来たものの、「メンバーの参加態度が素晴らしい！自分たちのWFSも、もっと頑張らないと…」と、ただただ感心し、良い刺激になったようです。



女性がすすんで観察結果をまとめます

WFSもいよいよ半年が経ち、うまくいっているところではメンバーの積極さなど態度に明らかに変化が表れてきています。特に、女性がここまで活発に参加するようになったのは驚きです。しかし、まだ多くのWFSが改善すべき課題を抱えています。

## ～ゲラ森林ワゲチャ村 セイド普及員のWFS～

セイド普及員のWFSには初めて訪問しましたが、学習の場(Learning Site)に椅子と日除けシートはあるものの、肝心の時間割やボードの他、文房具もありません。おまけに、時計は電池が切れて止まったまま。どうなっているんだ？「道具を保管しているメンバーが、今日は集会に行ってしまったからだ…」と、セイド普及員は言いますが、どうも様子がおかしいです。



道具が無いままにセッションを開始

道具が無いために観察も無く、いきなりキャベツを植え替えるための地ごしらえを始めます。おまけに鍬を持って作業をしているのは全員女性。「男連中はどうしたんだよ？」と尋ねると、「この時期は、うちの夫もアファロの方の森へ蜂蜜の収穫に行っているんだよ」と、女性達が答えます。確かに、ワゲチャへ来る途中で、「季節利用者」と称する多くの男達が森林コーヒーのある村へ向かうのにすれ違いました。ワゲチャ周辺は高地に位置し、コーヒーが生育できない上、森には竹など利用されていない樹種ばかり。主な生計はメイズを主とした農業と家畜生産、そして季節利用者としての出稼ぎです。



女性のみが作業し、キャベツの植え替えを行う

そうこうしている間にさっさと農地を耕し、キャベツの植え替えを始めています。「おいおい、何を比較試験するんだよ？」と尋ねると、「堆肥があるプロットと無いプロットだ！」と言いながら、植え替えを終えた後に、堆肥を調達に向かいます。

セッションを終えた後にセイド普及員に聞いてみると、「自分は南部の出身で、実はオロモ語が完ぺきで無いため農民への説明に限界がある。それに、英語もほとんど出来ないの、研修での理解度も低かったと思う…」と、打ち明けてくれました。こうした現状があることをプロジェクトが認識していなかったことを反省すると共に、早急の改善と定期的なサポートを確認・約束しました。

## ベレテ・ゲラの有用樹種

### Adami (*Euphorbia abyssinica*)

なかなか雨が降らず地面は乾ききっていますが、農家の住居の周りには意外と緑が目につきます。特に多いのが、乾燥に強く、家畜にも食べられないため、家の囲いとして好んで植えられるアダミです。葉はなくサボテンのような形をした枝を持つ、少し奇妙な木です。白い樹液はダニ退治に効果があるようなので、有効活用できるといいのですが…。森や村から持ち帰るダニには、いつも悩まされています。ん～、かゆい！

